

平成 29 年 3 月の調査報告書以降に、新たに整備された高知県・徳島県の津波避難タワー等マイマップ掲載個別表（平成 29 年 11 月 3 日現在）について

掲載責任者 香川大学 四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構 客員教授 松尾裕治

1、今回追加調査目的、

四国の津波避難タワー等の現地調査報告書（平成 29 年 3 月発行）以降に整備された高知県、徳島県の津波避難タワーの現地調査を行い、現在公開中の四国の津波避難タワー等位置図に追加することを目的とした。

2、調査実施方法、

高知県南海トラフ地震対策課から提供いただいた津波避難タワー整備進捗状況（平成 29 年 6 月）一覧表と報告書（平成 29 年 3 月発行）P7～9 の表 3 四国の津波避難タワー等一覧表の比較を行い、新たに追加調査する津波避難タワーを導き出した。

3、追加タワー調査結果

比較調査の結果、南国市 1 基、香南市 2 基、安田 1 基、室戸市 2 基の計 6 基が新たに整備されていたことが判明した。

なお四国の津波避難タワー等一覧表では、高知県 96 箇所になっているため、6 基加えると高知県で 102 基になる。これは、室戸市の都呂津波シェルターと四万十市の山地地区津波避難タワーが高知県の津波避難タワー整備進捗状況（平成 29 年 6 月 100 基）一覧表は含まれていないためである。

平成 29 年 7 月 21 日の高知新聞報道、【高知県内の津波タワー100 基に 命守る「砦」整備進む】との違いは、こうして事情によるものである。

新たに現地調査が必要な高知県内の津波避難タワー一覧表

整理番号	市町名	タワー名（仮称）	設置場所	収容人数
1	室戸市	佐喜浜町浦地区津波避難タワー	室戸市佐喜浜町 1 5 6 9-1	130
2	室戸市	岩戸津波避難タワー	室戸市元甲 2 0 8	120
3	安田町	安田町津波避難タワー3 号	安芸郡安田町唐浜 2 3 1 8-1 1	255
4	香南市	ヤ・シィパーク津波避難タワー	香南市夜須町千切（ヤシィパーク内）	600
5	香南市	Y8 吉川町松ヶ瀬津波避難タワー	香南市吉川町古川 1 5 6 6-4	77
6	南国市	前浜防災コミュニティーセンター	南国市前浜 1 5 3 4-1	772

4. 11 月 3 日高知県の現地調査で新たに確認した津波避難タワー

整理番号	市町名	タワー名（仮称）	設置場所	収容人数
1	安芸市	伊尾木駅前津波避難タワー	安芸市伊尾木 3 7 1 8-1 9	—

現地のタワーは、平成 29 年 11 月 8 日までの工期で、ほぼ完成していた。

5、平成 29 年 6 月に徳島県で整備された津波避難タワー

整理番号	市町名	タワー名（仮称）	設置場所	収容人数
110	松茂町	中喜来地区津波避難タワー	徳島県板野郡松茂町中喜来南 16	60

整理番号は、109 まで先の報告書で使用しているため、整理し個別表を掲載するため、四国 88 箇所霊場巡礼と同じ順路で整理番号を追加した。

6、今回、新たに追加した津波避難タワー個別表

次頁以降に、四国の津波避難タワー等の位置図に追加する徳島県 1 基、高知県 7 基の個別表を示す。

津波避難タワー等マイマップ掲載個別表

整理番	110	県名	徳島県	市町村	松茂町
名称	中喜来地区津波避難タワー				松茂町
所在場	徳島県板野郡松茂町中喜来南沢16				
現地調査・見所・アクセス・解説文	<p>徳島県松茂町中喜来にある北部農村公園には、中喜来地区津波避難タワー（写真1）が平成29年6月に整備されています。</p> <p>アクセスは、高速道路鳴門インターから徳島空港に行く国道11号沿いの場所に春日神社（写真2）があります。その南の向かい側に中喜来観音堂があります。その観音堂の横の海拔3mと電融に表示された小道（写真3）から西側に約100m入り、北西に向かう農道を約500m行ったレンコン畑の一角、北部農村公園の中に中喜来地区津波避難タワー（写真4）があります。</p> <p>このタワーは、徳島新聞（平成29年6月9日）によると松茂の津波避難タワー完成 県内初、風雨防ぐ構造、「松茂町が同町中喜来の北部農村公園敷地内に整備していた同町初の津波避難タワーが完成した。避難スペースは屋根と壁が備えられ、風雨をしのげる構造。県とくしまゼロ作戦課によると、周りを囲った避難スペースを持つタワーは県内で初めて。タワーは鉄骨造り。県が想定した、同地区の南海トラフ巨大地震による津波浸水深は2～3メートルで、避難スペースは地面から5メートルの高さに設けた。避難スペースの広さは64平方メートル。同地区の特定避難困難地域に住む約60人を全員収容できる。屋根と壁はチタン亜鉛合金の板でできており、内側には断熱材も入っている。避難者が1日過ごすのに必要な水や食料、携帯トイレなどもタワー内に備蓄する。総事業費は8682万円。東日本大震災や熊本地震では、被災後に体調を崩して亡くなる災害関連死が問題となった。災害は季節や天候を問わず発生することから、町は、避難者が雨風にさらされて体力を消耗することを防ぐため、避難スペースを囲うことにした。」と紹介されています。しかし、現地のタワーの登り口は、写真5のように施錠され、普段は上ることができない状況でした。また周辺の中喜来の主な集落は写真6のようにタワーから南、約500m程度離れています。最も近い最も近いレンコン畑の中の高石垣の民家（写真7）は、100m程度離れた場所にあります。</p> <p>この津波避難タワーのある松茂町中喜来には、春日神社境内には安政南海地震（1854年12月24日）の様子を漢詩で刻んだ『敬諭碑（けいゆひ）』（写真8）があります。その敬諭碑を建立した幕末明治期の阿波藍商の三木与吉郎の生家（写真9）が中喜来にあります。</p> <p>写真10には松茂町津波防災ハザードマップを示します。旧吉野川に近い低平地部の周辺の農地は津波浸水深さは3～4mの紫色ですが、北部農村公園は代少し高いためだいたい色の津波浸水深が2～3mの場所に、中喜来地区津波避難タワーを示します。また春日神社、観音堂の位置も併せて示しています。</p>				
掲載写真					
					
地図 (四国津波避難タワー等現地調査マップより)					
					

津波避難タワー等マイマップ掲載個別表

整理番号	111	県名	高知県		
名称	佐喜浜町浦地区津波避難タワー		市町村名	室戸市	
所在場所	室戸市佐喜浜1526				
現地調査・見所・アクセス・解説文	<p>徳島県境から約30km、国道55号を室戸方面に向かって走行すると佐喜浜川があります。橋を渡って佐喜浜小学校、横交差点を左折して約200m先の佐喜浜集落の中に佐喜浜浦地区津波避難タワー(写真1~3)があります。このタワーは、写真4の佐喜浜港入り口から約400m入った海拔が約3mの佐喜浜浦地区(写真5)の中であり、避難タワーの最上階が地上から10mの高さで海拔約13mにあり、130人が収容できる避難タワーとして、平成29年3月に整備(写真6)されています。</p> <p>現地のタワーは、正面の1階に写真7のような津波避難タワー利用注意が管理者の室戸市防災対策課より、掲示されており、普段は上り口が写真8のように施錠され、避難タワーに上がることができない状況ですが、非常時には、町内の都呂津波シェルター(写真9)と同じように施錠穴の上に、「非常の場合は、カバーを外し中のツマミを回してください」とあり、施錠穴のカバーを外して誰でも開けることができるようにしています。</p> <p>このタワーのある佐喜浜集落は、宝永地震の津波被害を記録した「谷陵記(こくりょうき)」に、「事なし」と記述されているものの、間城龍男著、宝永大地震-土佐最大の被害地震には、「佐喜浜：「事なし」「波止しもへしほ打つ」「少々浪入り候え共構わず」とあり、川より浸入をした津波は、低地の人家の床下や田畑に少々浸入をしていた模様である。」という記述があります。また村上仁士らは自然災害科学J. JSNDS 15-1, 1996では四国沿岸の歴史津波の津波高(羽鳥徳太郎が調査した津波高を引用)値から佐喜浜の津波高は4.5mと推定しています。</p> <p>写真10には室戸市津波防災マップ(佐喜浜町浦)を示します。そこに佐喜浜町浦地区津波避難タワーの位置を示します。津波避難タワーのある場所は、最大浸水深が5m~10mと予測されています。</p>				
掲載写真					
	写真1	写真2	写真3	写真4	写真5
掲載写真					
	写真6	写真7	写真8	写真9	写真10
地図 (四国津波避難タワー等現地調査マップより)					

津波避難タワー等マイマップ掲載個別表

整理番号	112	県名	高知県			
名称	岩戸津波避難タワー				市町村名	室戸市
所在場所	室戸市元甲208					
現地調査・見所・アクセス・解説文	<p>安芸から国道55号を室戸方面に向かって約35km走行すると左側に元の岩戸集落に入る道路があります。その道路を南東に約1km進んだ付近に高知東部交通の「岩戸神社前」バス停(写真4)があり、その前の鳥居ある道を進み、神社手前の道路を右折した先、岩戸集落の中に岩戸津波避難タワー(写真1~3)があります。</p> <p>このタワーは、岩戸神社入り口(写真5)の海拔が8.6mから約50m南東に入った岩戸地区(写真6)の中にあり、避難タワーの最上階が地上から13mの高さで、120人が収容できる避難タワーとして、平成29年3月に整備(写真7)されています。</p> <p>現地のタワーは、正面の1階に写真8のような津波避難タワー利用注意が管理者の室戸市防災対策課より、掲示されており、普段は上り口が施錠され、避難タワーに上がることができない状況です。非常時には、写真9のように「非常の場合は、ここを叩き割って開錠してタワーに避難するようになっています。</p> <p>このタワーのある元集落は、宝永地震の津波被害を記録した「谷陵記(こくりょうき)」に、【磯辺ノ家少シ流ル、潮ハ田丁三ヶマデ。慶長九年ノ潮ヨリ六尺 卑(ヒ)ト言。】と記されています。間城龍男著、宝永大地震-土佐最大の被害地震には、「ここでの津波の高さは11~12mである。更に北流をした津波は「備後の下まで浪先来た」と、海拔高度14~15m程度の地点にまで到達している。」と推定しています。</p> <p>室戸市が、住民の迅速で的確な津波避難につなげていただくため、南海トラフ地震津波のシミュレーション浸水予測結果から津波防災マップとして各地区の最大浸水深を公表しています。写真10には室戸市津波防災マップ(岩戸)を示します。そこに岩戸津波避難タワーの位置を示します。津波避難タワーのある場所は、最大浸水深が5m~10mと予測されています。</p>					
掲載写真						
						
地図 (四国津波避難タワー等現地調査マップより)	 					

津波避難タワー等マイマップ掲載個別表

整理番号	1 1 3	県名	高知県		
名称	安田町津波避難タワー3号			市町村名	安田町
所在場所	安田町大字唐浜2322番地1				
現地調査・見所・アクセス・解説文	<p>安芸から国道55号を室戸方面に向かって約10km走行すると左側に「たのうら石油」のガソリンスタンドがあります。その横のT型交差点を左折して、約100mを右折して南東に約1kmの安田鯉鮪船主会館の横の山側（写真4）の唐浜集落の中に安田町津波避難タワー3号（写真1～3）があります。</p> <p>このタワーは、避難タワーの最上階は海拔18.5mにあり、255人が収容できる避難タワーとして、平成29年3月に整備されています。現地のタワーは写真5のように普段はタワーのスロープ入り口（写真6）は施錠されタワーにあがることができない状況です。</p> <p>非常時には、防災ボックス（震度5弱以上で自動的に開く）にある鍵を使い開錠してタワーに上ることができるようになっています。</p> <p>この避難タワーを国道55号線の高架橋（写真7）から見ると唐浜集落より高い高さにあることがわかります。</p> <p>このタワーのある唐浜集落は、宝永地震の津波被害を記録した「谷陵記（こくりょうき）」に、【潮八田丁マデ、家ニハ入ラズ。】と記されています。</p> <p>また今村明恒：土佐に於ける宝永安政両度津浪の高さ、地震、10には、安田町付近の今村明恒（地震、10巻、1938年）の宝永津波侵入域図（写真8）を示し安田・唐浜は潮は田丁（田畑）まで来たと推定しています。</p> <p>高知県が県民に津波が襲来した事実を知っていただき、迅速で的確な津波避難につなげていただくため、過去に発生した津波の襲来履歴や浸水状況を把握し、シミュレーションで出された浸水予測結果と重ね合わせた図（写真9）を公表しています。</p> <p>写真10には安田町波防災マップ（津波予想区域）を示します。そこに安田町津波避難タワー3号の位置を示します。</p>				
掲載写真					
	写真1	写真2	写真3	写真4	写真5
					
	写真6	写真7	写真8	写真9	写真10
地図 (四国津波避難タワー等現地調査マップより)					

津波避難タワー等マイマップ掲載個別表

整理番号	114	県名	高知県		
名称	伊尾木駅前津波避難タワー			市町村名	安芸市
所在場所	安芸市伊尾木3718-19				
現地調査・ 見所・アク セス・解説 文	<p>安芸から国道55号を室戸方面に向かって伊尾木川を越えると約1km走行すると右側に土佐くろしお鉄道の「伊尾木駅」の案内看板がかかる交差点があります。そのT型交差点を右折して、約100m行ってさらに右折して100m先の安芸市中組集会所の横に伊尾木駅前津波避難タワー(写真1~3)があります。</p> <p>この避難タワーは海拔7.3m(写真4)の安芸市中組集会所の横にあり、現地調査した平成29年11月3日は、タワーは概成していたものの、写真5のような平成29年11月8日工期、の工事看板が設置され、まもなく完成する状況でした。</p> <p>現地のタワーの入り口には、写真6のように「非常時には、ここの扉を蹴破って進入してください」という文字が書かれた黄色いボード設置され、普段はタワーに上がる事ができない状況です。</p> <p>タワーは、土佐くろしお鉄道の「伊尾木駅」の前にあり、ホームには、「津波浸水予測では、このホーム高さから最大で5.3m浸水します。津波に注意、ここのホームの高さは海拔9.2m」の看板(写真7)が設置され津波からの避難を促しています。</p> <p>このタワーのある安芸市の伊尾木集落は、宝永地震の津波被害を記録した「谷陵記(こくりょうき)」に、【伊尾木：潮は山マデ、家ハ少シ残ル】と記されています。また宝永大地震一土佐最大の被害地震一(間城龍男著)は、安芸付近津波浸入図(写真8)示し、「安芸：「半亡所」「前両度、東浜の岸より下の家すきと浪に流れる、三番目の大潮入り…横町中の町角より上町の土居橋より北東は、岸より上半町許り西かぎり、北側は岸より上一町許西、後ろ川端まですきと流れ」安芸の町は東部と北東部に流失家屋があり、浸水家屋も多かった。…中略…西側は山麓に迫り。一部は山と砂丘の間を西由井の窪の東部まで進んだことも考えられる。」とあり、被害が大きかったと推定されています。</p> <p>高知県が県民に津波が襲来した事実を知っていただき、迅速で的確な津波避難につなげていただくため、過去に発生した津波の襲来履歴や浸水状況を把握し、シミュレーションで出された浸水予測結果と重ね合わせた図(写真9)を公表しています。</p> <p>写真10には安芸市伊尾木自主防災会(西組、中組・中村)津波ハザードマップを示します、そこに伊尾木駅前津波避難タワーの位置を示します。</p>				
掲載写真					
					
地図 (四国津波 避難タワー 等現地調査 マップよ り)					
					


津波避難タワー等マイマップ掲載個別表

整理番号	115	県名	高知県		
名称	ヤ・シィパーク津波避難タワー			市町村名	香南市
所在場所	香南市夜須町千切(ヤ・シィパーク内)				
現地調査・見所・アクセス・解説文	<p>国道 55 号を室戸方面に向かって走行すると右側に土佐くろしお鉄道の夜須駅があります。その夜須駅の手前の交差点から県立公園ヤ・シィパークに入った海岸沿いにヤシィパーク津波避難タワー（写真1～2）があります。</p> <p>このタワーは、鉄骨造り4階建てで、高さ14・75メートル。3、4階部分（計313平方メートル）の避難スペースには約600人が収容できる。津波避難タワーとして、平成29年6月に整備されています。</p> <p>現地のタワーは、写真3のように車いすで登れるスロープなどが整備されており、普段から開放され、人命を守るだけでなく展望台として利用できるようにされています。また、柱や梁（はり）などを白、手すりなどはブルーで彩り、パークらしい景観にも配慮したパークのシンボルの津波避難タワーとなっています。周辺の砂浜の最大浸水深は10～15メートル、30センチの津波到達時間は地震発生後10～20分と想定されています。</p> <p>この津波避難タワーの最上階から東には高知方面の海岸（写真4）が、背後（写真5）には、土佐くろしお鉄道やYS1夜須町第6地区西部津波避難タワーが近くに確認できます。</p> <p>このタワーのある夜須集落は、宝永地震の津波被害を記録した「谷陵記（こくりょうき）」に、【下夜須：半亡所、横浜・知切ノ家ハ悉ク流ル、潮ハ大宮（西山八幡宮）ノ庭マデ、此ノ浜ノ笠松流ル、屈枝蟠根、無双ノ名木也。惜シムベシ。】と記されています。また宝永大地震一土佐最大の被害地震一（間城龍男著）は、の夜須社付近津波浸入図（写真6）を示し、「手結：「亡所潮は山まで山の上の家少し残る」「寺二軒残る」 津波は山に達し、山の上にあった寺、家を残してすべて流失をした。千切：「家悉く流る」 津波は山に達し全戸流失をした。夜須：「夜須浜残こらず、在所の宮の前まで流失」「下夜須半亡所、横浜の家悉く流る、潮は大宮の庭迄」「夜須横浜へ押し入り本村東西共潮入り也、横浜の並松残らず押し流す」夜須浜の人家は全戸流失。また海岸から1.4m内陸に入った。西山八幡宮前（写真7）の人家も流失をした。津波は小丘上の八幡宮の境内にも入り、更に内陸に進んで「夜須の郷三十余町備後の下まで浪先来る」と海岸から約3kmの備後の付近（写真8）まで到達をした。」として、津波の高さは、「西山八幡宮の津波は「潮は大宮の庭迄」と、海拔高度約11mの境内に浸入をしているが、少し小高い高度約12m余の地に建つ社殿には達していない。従ってここでの津波の高さは11～12mである。更に北流をした津波は「備後の下まで浪先来る」と、海拔高度14～15m程度の地点にまで到達している。」と推定しています。</p> <p>高知県が県民に津波が襲来した事実を知っていただき、迅速で的確な津波避難につなげていただくため、過去に発生した津波の襲来履歴や浸水状況を把握し、シミュレーションで出された浸水予測結果と重ね合わせた図（写真9）を公表しています。写真10には香南市津波ハザードマップ（夜須町）を示します、そこにヤ・シィパーク津波避難タワー の位置を示します。</p>				
掲載写真					
					
地図 (四国津波避難タワー等現地調査マップより)					
					

津波避難タワー等マイマップ掲載個別表

整理番号	116	県名	高知県		
名称	Y8 吉川町松ヶ瀬津波避難タワー、			市町村名	香南市
所在場所	高知県香南市吉川町古川1566-4				
現地調査・ 見所・アク セス・解説 文	<p>国道 55 号を室戸方面に向かって走行し、赤岡町に入って南国警察署香南警察庁舎を過ぎて約100mの交差点（写真7）を右折し川沿いの道路を約1.6km行った香南市営住宅瀬戸団地の南側にY8 吉川町松ヶ瀬津波避難タワー（写真1～4）があります。</p> <p>このタワーは、避難階は海拔16.4mの高さにあり、77人が収容できる避難タワーとして、平成29年3月（写真5）に整備されています。現地のタワーの入り口には、写真6のように「緊急時には、ここを破って避難して下さい」という文字と中のノブを回し開ける手順が説明されていますが、普段はタワーにあがることができない状況です。</p> <p>このタワーのある海側の吉川町吉原集落は、宝永地震の津波被害を記録した「谷陵記（こくりょうき）」に、【芳原（吉原）：亡所、浜ノ並松ノ外ニ古田出ル、畔ノ形顕然タリ。地一反（約300坪10%）計リハ並松ノ西ノ端ニアリ、庄屋ヨリ申西（西南西）ニ当タル、庄屋屋敷ハ古ノ土居ノ跡ナリ。地二十代（約100坪、1代（シ）は1頃（ケイ）で1代は5歩）計リハ並松ノ東ノ端少シ西ヘヨリテ、同所ヨリ辰巳（南東）ニ当タル。里人言、此ノ所沙浜モ高潮推シ剥ギ推シ流シケレバ、今ニシテハ此ノ古田イクハク底ヨリ出タルト言ウコトヲ知ラズ。但シ、此ノ浜ノ松林ハ昔ヨリ当所ノ墓地ニシテ、常ニ六七尺（約1.8～2.1m.）掘ルト言エ共ツイニ斯克ノ如キ土ナシ、爰ヲ以テ相計レバ深サ一丈（約3m）ノ内ナラン。愚案ズルニ右ノ古田、秦氏ノ地検帳ニモ載ラズ、何レノ代没セシト言ウコトモ拠ナシ、上ニ三圃四圃ノ松樹オイタチヌレバ決シテ三四年ノ物ニアラズ。】と記されています。また宝永大地震一土佐最大の被害地震一（間城龍男著）は、香我美～南国の津波浸入図（写真6）示し、吉原：「亡所」「残らず」「吉原の住吉の宮なども構わない」「吉原の並松一町程宛で一連となり遠方へ流れ行く」海岸近くへの小丘を残して全村が浸水、小丘上の神社人家を除いてすべて流失した。また「浜の並松の外に古田出る」と吉原の海浜は津波によって表面の土砂の流された所もあった。津波の高さは、・・中略・・津波は砂丘を乗り越えてほとんどの人家に浸入したが流失家屋は3分の1程度であった。この事から砂丘を駆け上がった津波の高さは、町の人家3分の1位流失で済んだ、9m程度であった」と推定しています。</p> <p>高知県が県民に津波が襲来した事実を知っていただき、迅速で的確な津波避難につなげていただくため、過去に発生した津波の襲来履歴や浸水状況を把握し、シミュレーションで出された浸水予測結果と重ね合わせた図（写真9）を公表しています。</p> <p>写真10には香南市津波ハザードマップ（吉川町・野市町）を示します、そこにY8 吉川町松ヶ瀬津波避難タワー、の位置を示します。津波避難タワーのある場所は、最大浸水深が3m～5mと予測されています。</p>				
掲載写真					
					
地図 (四国津波 避難タワー 等現地調査 マップよ り)					
					

津波避難タワー等マイマップ掲載個別表

整理番号	117	県名	高知県		
名称	前浜防災コミュニティーセンター			市町村名	香南市
所在場所	高知県南国市前浜1534-1				
現地調査・ 見所・アク セス・解説 文	<p>国道 55 号から高知空港に向かって走行し、高知空港南西の物部川河口の県道 14号線が大きく東にカーブして川に沿って約 1.5km 西に行った所の南国市前浜郵便局横の交差点を右折して北側に約 400m 入ったところに左側に前浜防災コミュニティーセンター（写真1～3）があります。</p> <p>津波避難のスペースは前浜防災コミュニティーセンターの屋上（写真4）にあります。このタワーは南国市に現在ある 16 基の津波避難施設の中で最も収容人数が多い 772 人となっています。前浜防災コミュニティーセンター（写真5）への避難は、普段、車でセンターを利用しているためか、避難ステージまで、車が数台おける駐車場（写真6）が併設されています。</p> <p>センターは、地盤高が海拔 5m 程度の低平地（写真7）であり、センター周辺には、戦時中に造られた飛行機を敵の攻撃から守るための掩体壕（えんたいごう）の遺構が多く残っています。</p> <p>この前浜集落は、宝永地震の津波被害を記録した「谷陵記（こくりょうき）」に、【前濱：半亡所】と記されています。また宝永大地震一土佐最大の被害地震一（間城龍男著）は、香我美～南国津波浸入図（写真8）を示し、「津波は久枝、下島及び物部川方面より浸入をしてほぼ全村を浸し、川沿いの地は大道（旧本街道）付近まで達し、人家は約 3 分の 1 程度が流失をした。そして、死者も「二十余人死」「二十四人死」と 20 人余りあった。下村・久枝・下田村：「亡所」【下島も残らず】久枝から下島にかけての低い海岸砂丘を越えた津波、物部川より浸入をした津波は、全村を浸し全戸流失した。前浜：海岸砂丘は東部で 5～8m、西部で 9～12m、程度である。「半亡所」「少々入り候へ共構わず」「伊都多の宮の東西には、波及び申さず由」と、津波は低い東部の海岸砂丘を越え、久枝方面より来た津波と共に内陸に浸入した。・・・中略・・・津波の高さは、前浜：「伊都多の宮の東西には波及び申さず由」と、津波は境内に達していないので、この付近の津波の高さは 10m 以下であった。」と推定しています。</p> <p>高知県が県民に津波が襲来した事実を知っていただき、迅速で的確な津波避難につなげていただくため、過去に発生した津波の襲来履歴や浸水状況を把握し、シミュレーションで出された浸水予測結果と重ね合わせた図（写真9）を公表しています。</p> <p>写真10は南国市津波ハザードマップを示します。そこには他の津波避難タワーとともに前浜防災コミュニティーセンターの位置を記します。前浜防災コミュニティーセンターのある場所は、最大浸水深が 3m～5m と予測されています。</p>				
掲載写真					
					
地図 (四国津波 避難タワー 等現地調査 マップよ り)					
					